

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に、ホーム内の介護と地域との交流活動を広げていくことを職員全員で確認しあい、事業を実施している。	理念を「生活信条」という名称で事業所内に掲示している。生活する視線の位置で掲示されているので、日常的に自然に目に留まる。職員のみではなく、家族も利用者も声にして読み上げ、自分たちの生き方の支えとなっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の作業に出たり、散歩時にはゴミ拾い、地区の方を招いてお楽しみ会を開いたり日帰り旅行などを行っている。	毎年年度初めには地域の小学校と話し合いをして児童との交流計画を立てたり、地区の方も参加できる小旅行計画を地域の方と立て、地域の声に応じた交流を行い、事業所は地域の一員となっている。また地域や事業所の情報を掲載したお便りは、職員がポスティングをして戸狩区民全戸配布をするなど顔の見える交流も行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の方からは認知症家族について相談を受ける事がある、社協主催のサポーター養成講座の講師、小学生との交流、中学生の職場体験や、夏休みボランティア体験の受け入れ。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況報告や、ホームの事業運営の報告と相談をしながら、理解や支援を得て、さらに地域交流事業の実施には協力を得ている。	事業所運営や事業への提案や意見を頂き、評価を受け、次回へ反映、そして次年度への計画に参加して頂く仕組みがある。その仕組みはしっかり機能している。特に地域との交流(小旅行など)については積極的な参加がある。さらに利用者や家族の想いを大切に支援などサービスや生活に関しても反映される仕組みがあり機能している。	推進会議記録の充実を期待する。例えば、会議での提案事項や助言が行事や事業に反映されたことや意見がどのように反映されたのかが見てもわかるような記録。現場への反映も期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・入居者個々の介護や現状の報告と相談。 ・入退居者に関する相談。 ・運営推進会議での助言。	地域包括の職員が運営推進委員になっていることもあり、サービスのみではなく事業所の方針や事業実施における全般への連携や協力関係ができています。そして事業所が今後より伸ばして欲しい面への助言などが得られる関係ができています。	公民館長や区長の役割業務の負担や地域の特徴を考慮しながら、運営推進会議と連携する現状の体制の中で、区長さんとの連携が深まることを期待する。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の無いケアに取り組んでいるが、状況によっては危険(転倒など)が伴う行動時には、職員が引き止めることはある。	全職員は、身体拘束をしないことの意味や弊害を理解できている。そして各利用者の生活行動も把握できているので、職員の行き届いた配慮により、自由に外に出ることができる。地域からの見守り協力も得られていて、抑圧感のない暮らしの実現を行っている。	現状の抑圧感のない暮らしをさらに安心で安全を保つために、開所から現在までに体験した内容をベースにしてリスクマネジメント等を行い、今後に見える体制づくりを期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の個別介護の検討等について、この視点も含めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用			

ゆうあいの家様

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修やその伝達研修等を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	在宅ケアマネージャーと利用者・家族との同席で、書類により説明したり、利用後でも尋ねられれば説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族交流会で意見を聞いたり、お便りを通して意見を受けたりしている。 また、ボランティアさんや地域の方からも、家族からの意見や要望があったか等聞いている。	要望や意見は出しやすい環境であり、家族同士の交流から家族会(家族交流会)でのあり方についても意見が反映される仕組みがあり機能している。地域の方々が家族の想いを運営に反映できる仕組みもあり機能している。	記録の充実を期待する。例えば、出た要望や意見が運営等に反映できているが、その声によって反映できたという記録になっていない。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やアンケート・個別面談も実施し、より良い運営ができるようにしている。	毎年年度初めに職員との個別面談を実施。年2回実施するアンケートは、職員の声も事業所側の声も言いやすい仕組みになっている。日常的には会議などで職員が意見を言える環境であり、双方向の良い関係が運営をよりよく充実させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働く時間や出勤日、休みの希望は取り入れられている。 職務権限規定に基づいた、業務担当や入居者を担当制にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望を取り入れ、外部研修への参加の機会を確保している。内部研修では、その伝達や職種専門性を活用し、その職員が講師となり実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や介護福祉士会などの活用で、同業者と交流している。		

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者には早期に状況確認や、本人との信頼関係を築くため、特に集中して全職員でいろんな場面で話しや要望を聞くようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明や家庭への訪問などを通して、家族から要望や困っている事等うかがっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時点で一番困っていること、入居にあたり要望する事などを伺い対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の若い頃の話や、その時代のこと調理のことなどは教えてもらうことが多い。また、入居者が時々肩もみしてくれたり、一緒に入浴や午睡などをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは一緒に入居者への支援をするチームの一員として個別会議を持ち、ホームでの介護のことを相談するようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所を聞き外出活動に取り入れたたり、買い物や受診に合わせたり、友人・家族などの面会や同伴外出などできるようにしている。	本人の気持ちや想いをとても大切にしている。職員は、日々の関わりの中での利用者の表情や言葉を大切に、買い物や受診時などに関係の継続が実現できるよう細かな対応をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性、年齢、生活暦等から、より良い関係が作れるように、食事の席、家事分担、入浴などの場面で支援している。		

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も自由に来て頂けるよう、話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に生活の希望ややりたいことを聞く、又日常会話から把握するようにしている。家族からも本人の在宅時のことや、ここでの生活への希望など聞いている。	本人や家族の意向を大切にしている。「みんなの願い」として一覧にして掲示している。家族にも意見をもらったり支援してもらって、達成している。家族個人記録生活日誌に具体的に記録して、介護計画に反映できている。	個人記録生活日誌に記載された本人などの意向が反映された介護計画であることや家族からの頂いた情報が反映された介護計画であることが解りやすい記録作りを期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、在宅時のケアマネージャー、包括支援センター職員等から、情報を得て把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様々な場面での観察をし、それを記録することで把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の本人の言葉や行動から思いや現状を把握し、家族との相談を通し、職員会議で検討し介護計画を作成。	3か月に一度の評価記録があり、日常的に必要ながあればそれ前に見直しを行っている。援助内容は職員全員で話し合っって作成し、家族の意見も聞いている。計画に対する評価が解りやすい記録となっている。	評価の根拠が解りやすく記録されることを期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	場面状況を正確に記録するよう努め、職員が同じように情報把握が出来る様にし、それに基づき介護計画やその実践につなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望にはなるべく対応できるように努めている。		

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流、ボランティアの力、各種サークルの訪問を受ける、地域の方の力を借りる等しながら楽しみのある生活が出来るようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個々の主治医を大切に、継続して適切な医療が受けられる様になっている。	かかりつけ医の受診は、個々に異なる支援に対応している。家族が付き添うときには事業所での状態や様子を記録したものを持参してもらい、受診後の結果等は家族から報告を受け、利用者の健康状態の把握ができる仕組みがあり機能している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員から、異常の早期発見のための各個人の症状や観察点など指示してもらい、職員全員で観察や報告、相談をし合っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院まで、家族と共に病院との情報のやり取りをし、早期退院に向けて対応している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時点で、家族や主治医と相談し、方針を決定していく。早い段階から具体的な話は難しい。体調により初めの方針だけでなく、その都度話し相談できるようにしている。	これまでに看取りをした経験はある。重度化した場合の対応については書面で明確にしてあり、契約時に家族に説明している。健康状態に応じて随時家族と話し合いをしている。看護師が対応している。	事業所は健康状態に応じて随時、家族と話し合うことで家族の気持ちが変わっていることに気付いている。よって、その人らしい最期を迎えるためと家族の想いに応えるために話し合いの記録を残すことを提案する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期の救急法の研修を実施したい。看護職員による内部研修の実施。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定しての避難誘導訓練の実施。 地震発生時の対応等の手順作成と訓練に本年度は取り組み中である。	当然、日中の火災を想定した避難訓練は実施しているが、夜勤者一人に対処しなくてはならない夜間時の避難訓練も実施している。夜間の訓練では夜勤者以外の職員は、自分が夜勤者だった場合を想定したイメージトレーニングをしながら訓練に参加している。	訓練後は、反省内容や課題が明確になるので、それを解決するための検討会などの開催し、運営推進会議への報告の実施を期待する。また現在取り組み中の地震発生時の対応及び原発事故を想定した訓練の実現も期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の、今までの歩みや暮らし方を全職員で認識を共有し、声掛けの仕方を検討している。 居室への職員入室時の声掛けも必ずするようにしている。	各利用者それぞれの価値観や生活歴を尊重し大切にしている。そのための職員間での状況や情報の把握を大切にしている。	浴室の入り口を入ると脱衣室がありその奥が浴室となっている。浴室の入り口には、のれんがあり、ドアの開閉時の目隠しにはなっている。しかし玄関から直線状に浴室があるので可能な配慮を頂けるとありがたい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々が自分の考えや意見が出せるように、また、行動や活動の自己決定ができるような声掛けや問いかけをするよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ができる時間にできることをしていただき、やりたくなかったりできなかったときは、それで良しとしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの服装(形や色など)や服をきちんと着られているようにとか、整髪などに気を配っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物の理由や食べたい物を聞いたり、季節の旬のものを考え合ったり、畑の野菜を採って調理方法を聞く中で、嫌いで食べない利用者も今では食事への楽しみ感を膨らませながら、準備から片付けまで一緒に行っている。	職員が各テーブルについて、皆で楽しく食事ができるよう盛り上げている。玄関先にある畑で採れた野菜を調理している。利用者が収穫するときに調理の仕方を話す・定期的な特別献立の実施など食事への楽しみを膨らませる工夫もある。食事の準備や片付けそして食事することは援助計画や介護計画に反映されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事カロリー、栄養バランスなどの確認を栄養士に依頼し指導を受けている。また、水分量は確認し記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の歯磨きへの支援や、夜間は義歯を洗浄剤液に浸しておくなどもしている。		

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の心身状況に応じ、トイレへの誘導やポータブルトイレの使用、昼と夜とのパッド等の使い分け等をしている。	本人の気持ちや想いをとても大切にしている。そして本人の心身の状態に適切な対応をしている。失禁対応は、職員の配慮や気配りが利用者の気持ちに配慮できている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便状態の把握に努め、水分量を確保するため、好きな飲み物を取り入れるようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時々近くの温泉を利用したり、ホームでの入浴は本人の希望や体調にあわせ、入浴時間や一緒に入る他者の組み合わせ等を考え支援している。	温泉入浴はこの地域での一つの生活習慣になっている。この習慣が身について利用者とならない利用者への対応は区別できていて適切であり、利用者はそれぞれがとても楽しみにしている。ホームでの入浴時間は定めがなく各々の希望や状態に応じた入浴支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるよう、日中は家事・散歩等のことをしていただいている。 休憩や午睡も自由にできるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書を利用し、職員全員が分かるようにしている。 個々への配薬と内服が確実に出来るよう管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とすることで、その方の力を発揮していただけるよう見極め、設定やお願いをしている。行きたい所への外出や地域の行事への参加や地域の方に来所いただく等も取り入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい所や、したいこと等を入居者各々から出してもらい、実現できるようホーム内での計画に入れたり、家族の協力も得ている。日常的には買い物や医療機関の受診に合わせたりと支援している。	希望に応じて随時外出支援をしている。施設の買い物に同行してもらい、そのついでに自分の好きな買い物を楽しむ支援があるなど、利用者の希望に沿って各々が楽しめるような外出支援を行っている。利用者は、とても楽しみにしている様子がうかがえる。	

ゆうあいの家桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額はもっている方もいる。持っていない方も、外出時には使えるように本人に渡している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも自由に行っている。出来ない部分は職員が手伝っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の景色を眺めやすいように、食堂の席や居間のソファ-の位置に配慮している。また、冬は居間に炬燵を出し寄り付ける場としている。ホーム内にはなるべく季節の花々を飾るように心がけている。	共有スペースでは季節感が感じられる配慮があり、外の様子や日差しが穏やかな気持ちにさせてくれる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ-を置いたり、居間は座卓を置いたり、玄関先には椅子を置くなどしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や入居者と相談し、馴染みの物や大切な物(家具、仏壇、等)を自由に持ち込んでいただいている。テレビを自室に入れている方もいる。	5畳の広い居室には、利用者が好きなものを持ち込むことができ、家族からの協力も得て、その人らしい居心地のよい居室である。小学生が描いた似顔絵が入り口に飾られ、居室の明るく暖かな雰囲気を一層高めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ、できるだけ手すり等の活用や、移動用具の活用、滑り止めマットの活用などを行っている。		